

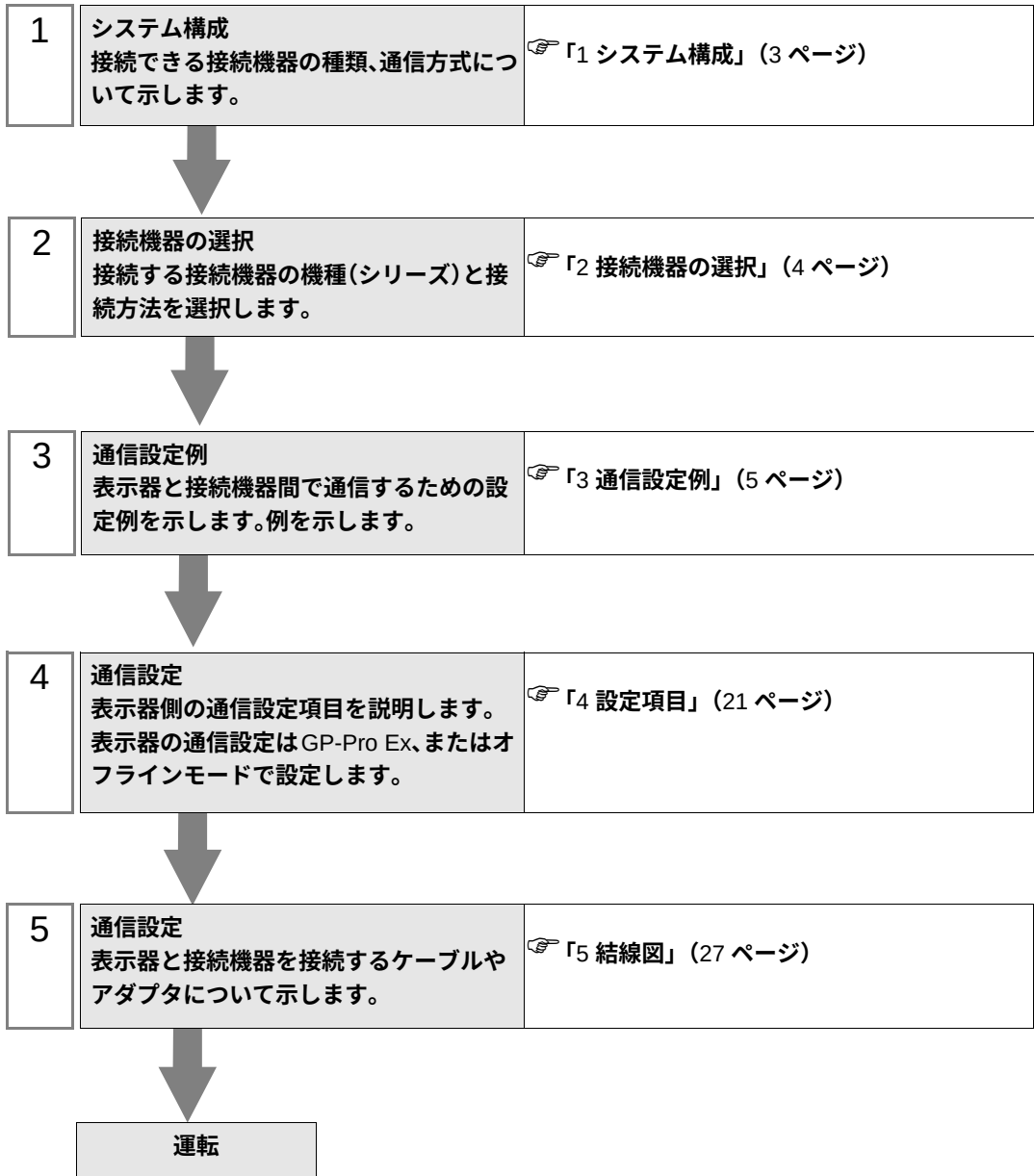
DF1 ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択	4
3	通信設定例	5
4	設定項目	21
5	結線図	27
6	使用可能デバイス	36
7	デバイスコードとアドレスコード	45
8	エラーメッセージ	53

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

Rockwell 製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU モジュール	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
SLC500	SLC 5/03 SLC 5/04 SLC 5/05	Channel 0	RS232C	設定例 1 (5 ページ)	結線図 1 (29 ページ)
		1770-KF3 2760-RB 1775-KA 5130-RM	RS232C		結線図 2 (30 ページ)
		1771-KGM	RS232C		結線図 3 (31 ページ)
PLC-5	PLC-5/11 PLC-5/20 PLC-5/30 PLC-5/40 PLC-5/40L PLC-5/60 PLC-5/60L	Channel 0	RS232C	設定例 2 (8 ページ)	結線図 2 (30 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 3 (11 ページ)	結線図 6 (34 ページ)
ControlLogix	Logix5550	CPU Direct	RS232C	設定例 4 (14 ページ)	結線図 1 (29 ページ)
MicroLogix	MicroLogix 1500 (1764-LRP)	Channel 1	RS232C	設定例 5 (18 ページ)	結線図 1 (29 ページ)
	MicroLogix 1000 MicroLogix 1200 MicroLogix 1500 (1764-LSP,1764-LRP)	Channel 0	RS232C		結線図 4 (32 ページ)
		AIC + Advanced Interface Converter 1761-NET-AIC	RS232C		結線図 5 (33 ページ)
CompactLogix	1769-L20 1769-L30 1769-L31 1769-L32E 1769-L35E	Channel 0	RS232C	設定例 4 (14 ページ)	結線図 1 (29 ページ)

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「Rockwell Automation, Inc.」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の種類（シリーズ）と接続方法を選択します。「DF1」を選択します。 「DF1」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」（3 ページ）
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4 LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [本体設定] の設定ガイド ◆システムエリア設定」 参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.14.1 表示器共通」 ■ [本体設定] の設定ガイド ◆システムエリア設定
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

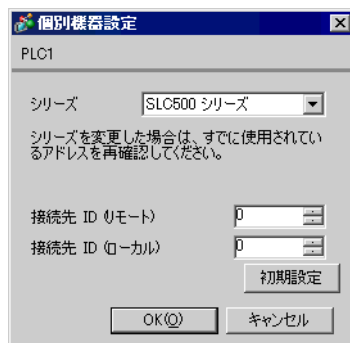
設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

MEMO

- ・ [DF1 モード] は、使用するドライバに合わせて [Full Duplex] または [Half Duplex Mster] から選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



MEMO

- Full Duplex の場合は、「接続先 ID (ローカル)」は使用しません。

■ 接続機器の設定

通信設定は、ラダーソフトである「RSLogix 500」にて行います。

「RSLogix 500」の「Channel Configuration」を開き、「Chan. 0 - System」タブにて設定を行います。

◆ Full Duplex の場合

設定項目	設定内容
Driver	DF1 Full Duplex
Baud	19200
Parity	NONE
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
Error Detection	CRC
Embedded Responses	Auto-detect
Duplicate Packet Detect	Disabled
ACK Timeout	50
NAK Retries	3
ENQ Retries	3
Source ID	0

◆ Half Duplex の場合

設定項目	設定内容
Driver	DF1 Half Duplex Slave
Baud	19200
Parity	NONE
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
Error Detection	CRC
EOT Suppression	Disabled
Duplicate Packet Detect	Disabled
Poll Timeout	3000
Message Retries	3
Pre Transmit Delay	0
Node Address	0

◆ 注意事項

- その他設定内容の詳細についてはラダーソフトのマニュアルを参照してください。

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

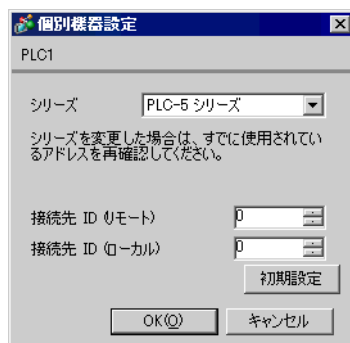
設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

MEMO

- ・ [DF1 モード] は、使用するドライバに合わせて [Full Duplex] または [Half Duplex Master] から選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



MEMO

- Full Duplex の場合は、「接続先 ID (ローカル)」は使用しません。

■ 接続機器の設定

通信設定は、ラダーソフトである「RSLogix 5」にて行います。

「RSLogix 5」の「Channel Configuration」を開き、「Chan. 0」タブにて設定を行います。

◆ Full Duplex の場合

設定項目	設定内容
Communication Mode	System(Point-To-Point)
Baud Rate	19200
Parity	NONE
Bits per Char	8
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
Error Detection	CRC
Embedded Responses	Auto-detect
Detect Duplicate Messages	Disabled
ACK Timeout	50
NAK Receive	3
DF1 ENQs	3
MSG Application Timeout	30 seconds
Station Address	0

◆ Half Duplex の場合

設定項目	設定内容
Communication Mode	System(Slave)
Baud Rate	19200
Parity	NONE
Bits per Char	8
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
Error Detection	CRC
Detect Duplicate Messages	Disabled
RTS Send Delay	0
RTS Off Delay	0
ACK Timeout	50
DF1 Retries	3
MSG Application Timeout	30 seconds
Station Address	0

◆ 注意事項

- ・ その他設定内容の詳細についてはラダーソフトのマニュアルを参照してください。

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☐ RS422/485(2線式) ☒ RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☒ なし ☐ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☐ なし ☒ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

DF1 プロトコル

DF1 モード

エラー検出

自局 ID

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台

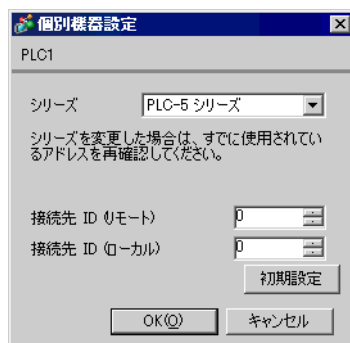
No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=SLC500 シリーズ接続先 ID (リモート)=1.接続先 ID (ローカル)=1

MEMO

- ・ [DF1 モード] は、使用するドライバに合わせて [Full Duplex] または [Half Duplex Master] から選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

**MEMO**

- Full Duplex の場合は、「接続先 ID (ローカル)」は使用しません。

■ 接続機器の設定

通信設定は、ラダーソフトである「RSLogix 5」にて行います。

「RSLogix 5」の「Channel Configuration」を開き、「Chan. 0」タブにて設定を行います。

◆ Full Duplex の場合

設定項目	設定内容
Communication Mode	System(Point-To-Point)
Baud Rate	19200
Parity	NONE
Bits per Char	8
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
Error Detection	CRC
Embedded Responses	Auto-detect
Detect Duplicate Messages	Disabled
ACK Timeout	50
NAK Receive	3
DF1 ENQs	3
MSG Application Timeout	30 seconds
Station Address	0

◆ Half Duplex の場合

設定項目	設定内容
Communication Mode	System(Slave)
Baud Rate	19200
Parity	NONE
Bits per Char	8
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
Error Detection	CRC
Detect Duplicate Messages	Disabled
RTS Send Delay	0
RTS Off Delay	0
ACK Timeout	50
DF1 Retries	3
MSG Application Timeout	30 seconds
Station Address	0

◆ 注意事項

- ・ その他設定内容の詳細についてはラダーソフトのマニュアルを参照してください。

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

The screenshot shows the '接続機器1' (Connection Device 1) settings window. The '概要' (Summary) section shows 'メーカー' (Manufacturer) as 'Rockwell Automation, Inc.', 'シリーズ' (Series) as 'DF1', and 'ポート' (Port) as 'COM1'. The '文字列データモード' (String Data Mode) is set to '1'. The '通信設定' (Communication Settings) section includes options for '通信方式' (Communication Method) set to 'RS232C', '通信速度' (Communication Speed) set to '19200', 'データ長' (Data Length) set to '8', 'パリティ' (Parity) set to 'なし' (None), 'ストップビット' (Stop Bits) set to '1', 'フロー制御' (Flow Control) set to 'ER(DTR/CTS)', 'タイムアウト' (Timeout) set to '3' seconds, 'リトライ' (Retry) set to '2' times, and '送信ウェイト' (Transmit Wait) set to '0' ms. The 'DF1 プロトコル' (DF1 Protocol) section shows 'DF1 モード' (DF1 Mode) set to 'Full Duplex', 'エラー検出' (Error Detection) set to 'CRC', and '自局 ID' (Own Station ID) set to '0'. The 'RI / VCC' section shows 'RI' selected. A note explains that for RS232C, the 9th pin can be used for RI (input) or VCC (5V power supply), and users should choose based on their hardware. The '機器別設定' (Device-specific Settings) section shows '接続可能台数' (Maximum Number of Connectable Devices) as '16台', 'No.' as '1', and '機器名' (Device Name) as 'PLC1'. The '設定' (Settings) field shows 'シリーズ=SLC500 シリーズ,接続先 ID (リモート)=1,接続先 ID (ローカル)=1'. A '初期値設定' (Initial Value Setting) button is also present.

MEMO

- ・ [DF1 モード] は、使用するドライバに合わせて [Full Duplex] または [Half Duplex Mster] から選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

**MEMO**

- Full Duplex の場合は、「接続先 ID (ローカル)」は使用しません。

■ 接続機器の設定

通信設定は、ラダーソフトである「RSLogix 5000」にて行います。

「RSLogix 5000」の「Channel Configuration」を開き、「Serial Port Protocol」タブにて設定を行います。

◆ Full Duplex の場合

設定項目	設定内容
Protocol	Point to Point
Baud	19200
Parity	NONE
Data Bits	8
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
RTS Send Delay	0
RTS Off Delay	0
Error Detection	CRC
Embedded Response	Autodetect
Enable Duplicate Detection	Disabled
ACK Timeout	50
NAK Receive Limit	3
ENQ Transmit Limit	3
Station Address	0

◆ Half Duplex の場合

設定項目	設定内容
Protocol	DF1 Slave
Baud	19200
Parity	NONE
Data Bits	8
Stop Bits	1
Control Line	No Handshaking
RTS Send Delay	0
RTS Off Delay	0
Error Detection	CRC
EOT Suppression	Disabled
Enable Duplicate Detection	Disabled
Transmit Retries	3
Slave Poll Timeout	3000
Station Address	0

◆ 注意事項

- その他設定内容の詳細についてはラダーソフトのマニュアルを参照してください。

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[接続機器設定]を選択します。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 ☒ RS232C ☐ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☒ なし ☐ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☐ なし ☒ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

DF1 プロトコル

DF1 モード

エラー検出

自局 ID

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期値設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台

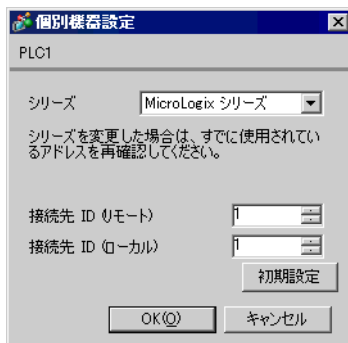
No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=SLC500 シリーズ,接続先 ID 0(モート)=1,接続先 ID 0(ローカル)=1

MEMO

- ・ [DF1 モード] は、使用するドライバに合わせて [Full Duplex] または [Half Duplex Master] から選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



MEMO

- Full Duplex の場合は、「接続先 ID (ローカル)」は使用しません。

■ 接続機器の設定

通信設定は、ラダーソフトである「RSLogix 500」にて行います。

「RSLogix 500」の「Channel Configuration」を開き、「Chan. 0 - System」タブにて設定を行います。

◆ Full Duplex の場合

設定項目	設定内容
Primary Protocol	DF1 Full Duplex
Baud	19200
Parity	NONE(固定)
Stop Bits	1(固定)
Control Line	No Handshaking(固定)
Error Detection	CRC
Embedded Responses	Auto-detect
Enable Duplicate Detection	Disabled
ACK Timeout	50
DLE NAK Retries	3
DLE ENQ Retries	3
Node Address	1

◆ Half Duplex の場合

設定項目	設定内容
Primary Protocol	DF1 Half Duplex Slave
Baud	19200
Parity	NONE(固定)
Stop Bits	1(固定)
Control Line	No Handshaking(固定)
Error Detection	CRC
EOT Suppression	Disabled
Poll Timeout	3000
RTS On Delay	0
RTS Send Delay	0
Message Retries	3
Pre-Transmit Delay	0
Node Address	1

◆ 注意事項

- その他設定内容の詳細についてはラダーソフトのマニュアルを参照してください。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(5 ページ)

4.1 GP-Pro EX での通信設定

■ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

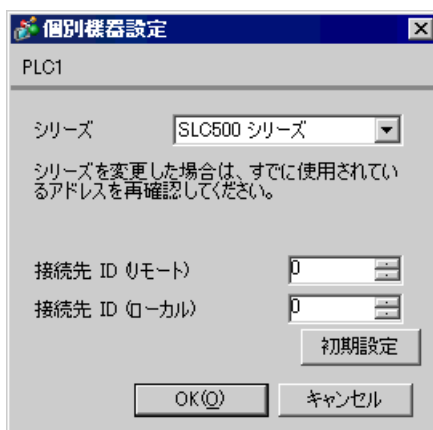
設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御方式を選択します。
タイムアウト	接続機器との通信時に、表示器が受信タイムアウトエラーになるまでの秒数 (sec) を「1～127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。

設定項目	設定内容
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ～ 255」で入力します。
DF1 モード	DF1 プロトコルのタイプを設定します。「Full Duplex」もしくは「Half Duplex Master」を選択します。
エラー検出	エラーチェック方法を設定します。「CRC」もしくは「BCC」を選択します。
自局 ID	表示器の ID を設定します。
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

[接続可能台数] が複数の場合は [接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、設定できる接続機器を増やすことができます。



設定項目	設定内容
シリーズ	シリーズ名に「SLC500 Series」「PLC-5 Series」「ControlLogix Series」「MicroLogix Series」「CompactLogix Series」のいずれかを選択します。
接続先 ID (リモート)	Destination ID を「0 ～ 254」で入力します。
接続先 ID (ローカル)	Destination (ローカル) ID を「0 ～ 254」で入力します。

4.2 オフライン画面での設定

MEMO

- ・ オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.2 オフラインモードについて」

■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの「周辺機器設定」から「接続機器設定」をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

(1/2 ページ)

通信設定	機器設定	オプション		
DF1 [COM1] Page 1/2				
通信方式	RS232C			
通信速度	19200			
データ長	8			
パリティ	☒ なし ☐ 偶数			
ストップビット	1			
フロー制御	ER(DTR/CTS)			
タイムアウト(s)			3	▼ ▲
リトライ			2	▼ ▲
送信ウェイト(ms)			0	▼ ▲
➡				
終了		戻る		2005/09/02 13:08:09

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御方式を選択します。
タイムアウト	接続機器との通信時に、表示器が受信タイムアウトエラーになるまでの秒数(sec)を「1～127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間(ms)を「0～255」で入力します。

(2/2 ページ)

通信設定	機器設定	オプション		
DF1 [COM1] Page 2/2				
DF1 モード エラー検出 自局 ID		Full Duplex CRC 0		
				←
終了		戻る		2005/09/02 13:08:11

設定項目	設定内容
DF1 モード	DF1 プロトコルのタイプを設定します。「Full Duplex」もしくは「Half Duplar Master」を選択します。
エラー検出	エラーチェック方法を設定します。
自局 ID	表示器の ID を設定します。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
DF1		[COM1]		Page 1/1
接続機器名		PLC1		
シリーズ		SLC500 シリーズ		
接続先 ID (リモート)		1	▼▲	
接続先 ID (ローカル)		1	▼▲	
終了		戻る		2005/09/02 13:08:13

設定項目	設定内容
接続機器名	機器設定を行う接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	シリーズ名に「SLC500 シリーズ」「PLC-5 シリーズ」「ControlLogix シリーズ」「MicroLogix シリーズ」「CompactLogix シリーズ」のいずれかを選択します。
接続先 ID (リモート)	受信者 ID を「0 ～ 254」で入力します。
接続先 ID (ローカル)	受信者 (ローカル) ID を「0 ～ 254」で入力します。

■ オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション] をタッチします

通信設定	機器設定	オプション		

DF1

[COM1]

Page 1/1

RI / VCC

☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

	終了		戻る	2005/09/02 13:08:16
--	----	--	----	------------------------

設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。

5 結線図

以下に示す結線図と Rockwell が推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。
- 接続機器と IPC を RS-232C で接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズによって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

シリーズ	使用可能ポート
PS-2000B	COM1※ ¹ 、COM2、COM3※ ¹ 、COM4
PS-3650A、PS-3651A	COM1※ ¹
PS-3700A (Pentium®4-M)	COM1※ ¹ 、COM2※ ¹ 、COM3※ ² 、COM4

※¹ RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

※² 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

- 接続機器と PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 を接続する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。詳細は PS-3700A(Pentium®4-M) のマニュアルを参照してください。

ディップスイッチの設定：RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	OFF	COM3 の通信方式：RS-232C
3	OFF	
4	OFF	TX データの出力モード：常に出力
5	OFF	TX への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RX への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	TXA と RXA の短絡：しない
8	OFF	TXB と RXB の短絡：しない
9	OFF	Auto Detection：無効
10	OFF	

ディップスイッチの設定：RS-422/485（4 線式）

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	ON	COM3 の通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	TX データの出力モード：常に出力
5	OFF	TX への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RX への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	TXA と RXA の短絡：しない
8	OFF	TXB と RXB の短絡：しない
9	OFF	Auto Detection：無効
10	OFF	

結線図 1

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP (COM1) IPC※1※2	A	(株) デジタル製 RS232C ケーブル CA3-CBL232/5M-01 (5m)	9/25 ピン変換アダプタが 必要です。
	B	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内に してください。

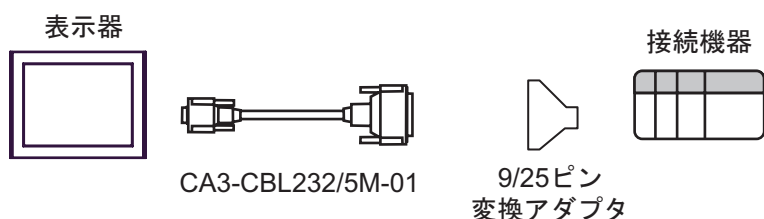
※1 使用できるポートはシリーズによって異なります。

☞ **使用可能ポート (27 ページ)**

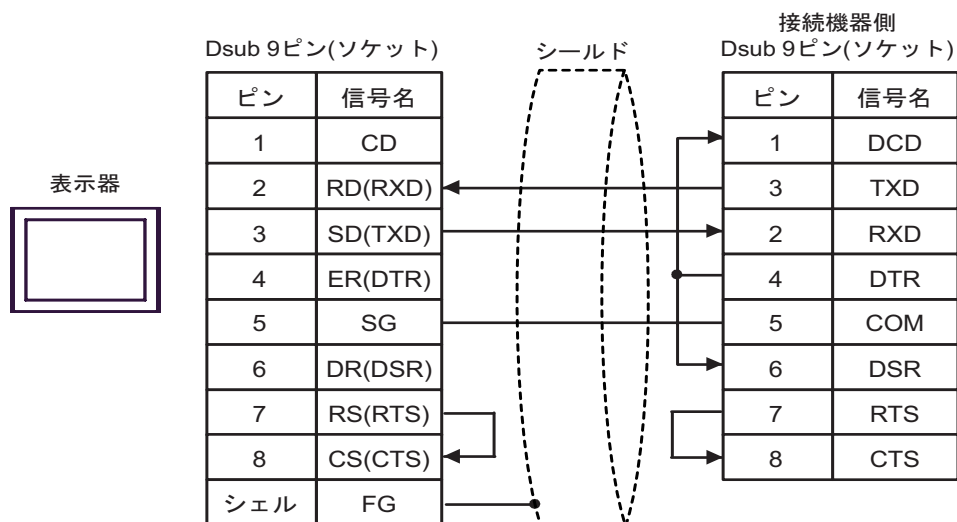
※2 PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 を使用する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

☞ **ディップスイッチの設定：RS-232C (27 ページ)**

A) (株) デジタル製 RS232C ケーブル (CA3-CBL232/5M-01) を使用する場合



B) 自作ケーブルを使用する場合



結線図 2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP (COM1) IPC※1※2	A	(株) デジタル製 RS232C ケーブル CA3-CBL232/5M-01 (5m)	
	B	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内に してください。

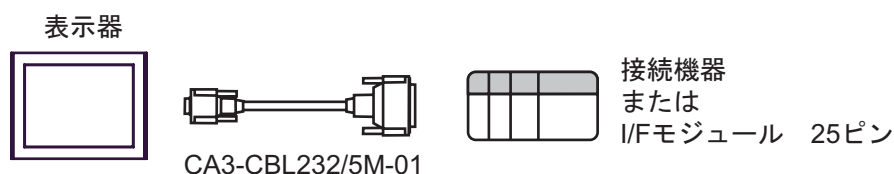
※1 使用できるポートはシリーズによって異なります。

☞ **使用可能ポート (27 ページ)**

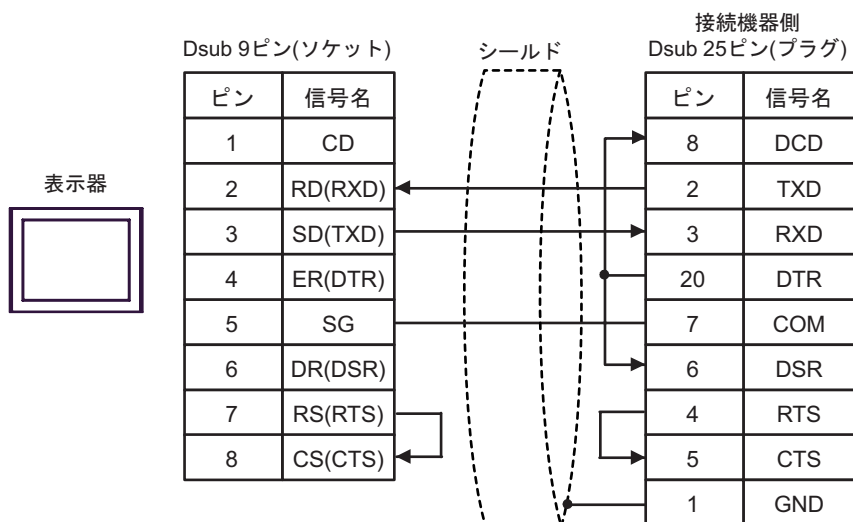
※2 PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 を使用する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

☞ **ディップスイッチの設定：RS-232C (27 ページ)**

A) (株) デジタル製 RS232C ケーブル (CA3-CBL232/5M-01) を使用する場合



B) 自作ケーブルを使用する場合



結線図 3

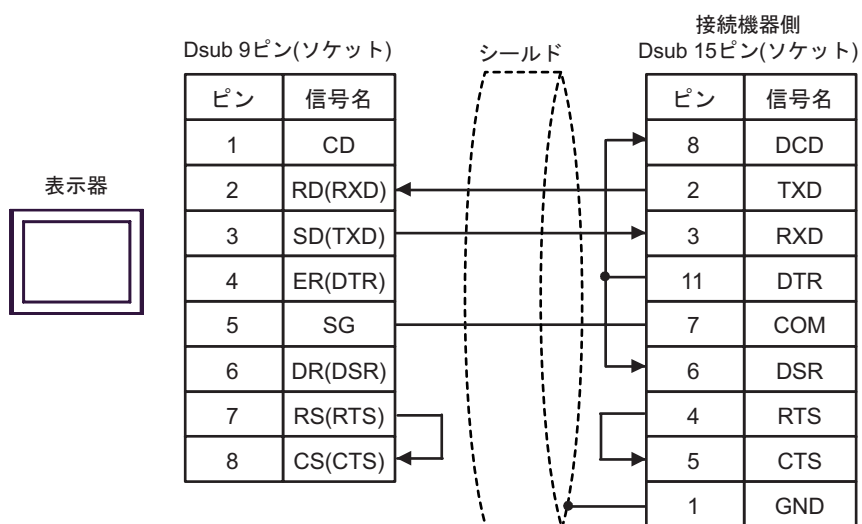
表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) IPC※1※2	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内にしてください。

※1 使用できるポートはシリーズによって異なります。

☞ **使用可能ポート (27 ページ)**

※2 PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 を使用する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

☞ **ディップスイッチの設定：RS-232C (27 ページ)**



結線図 4

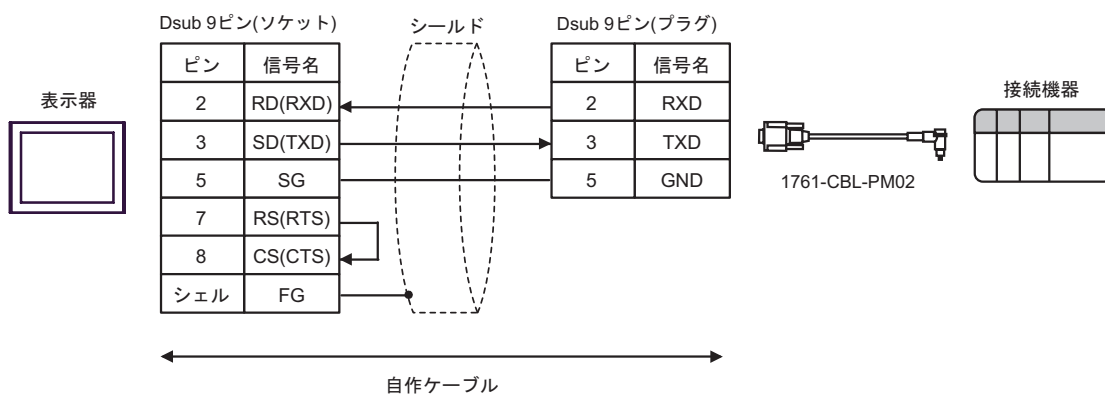
表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) IPC※1※2	自作ケーブル + Rockwell Automation 製 RS232C ケーブル 1761-CBL-PM02	ケーブル長は 15m 以内にしてください。

※1 使用できるポートはシリーズによって異なります。

☞ **使用可能ポート (27 ページ)**

※2 PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 を使用する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

☞ **ディップスイッチの設定：RS-232C (27 ページ)**



結線図 5

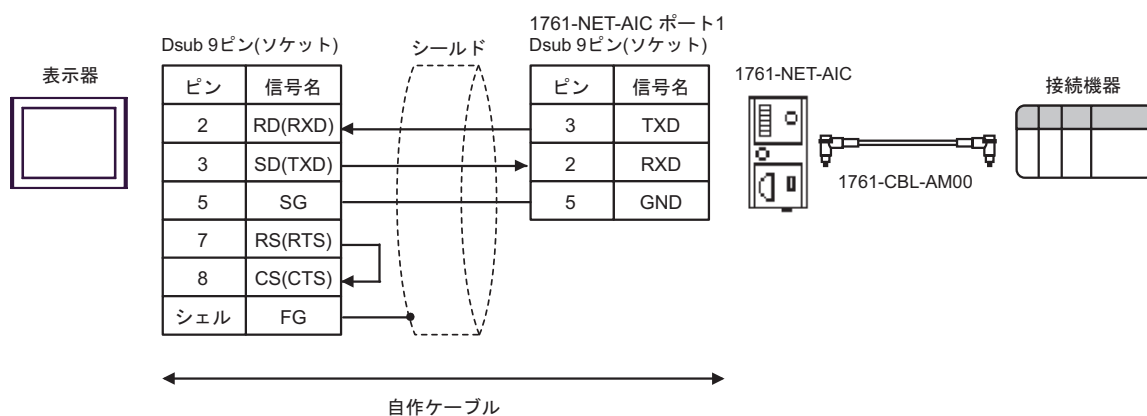
表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1) IPC※1※2	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内にしてください。

※1 使用できるポートはシリーズによって異なります。

☞ **使用可能ポート (27 ページ)**

※2 PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 を使用する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

☞ **ディップスイッチの設定：RS-232C (27 ページ)**



結線図 6

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ^{※1} (COM1) AGP-3302B (COM2) IPC ^{※2} (COM3)	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 61m 以内 にしてください。
	B	自作ケーブル	
GP ^{※3} (COM2)	C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

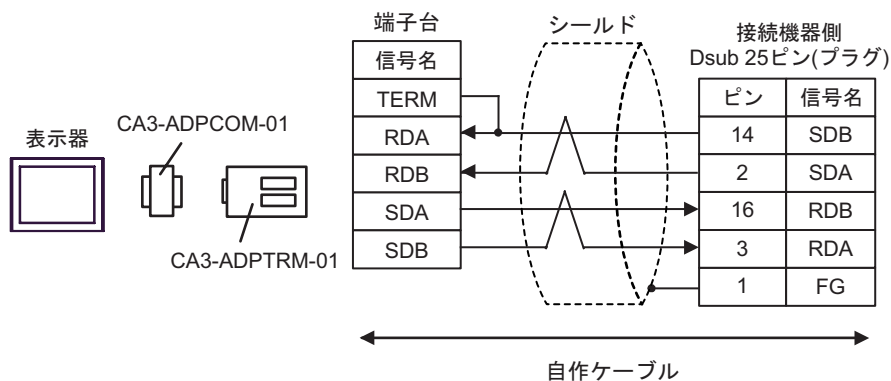
※1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

※2 PS-3700A(Pentium®4-M) の COM3 のみ使用できます。COM3 を使用する場合、COM3 の通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。

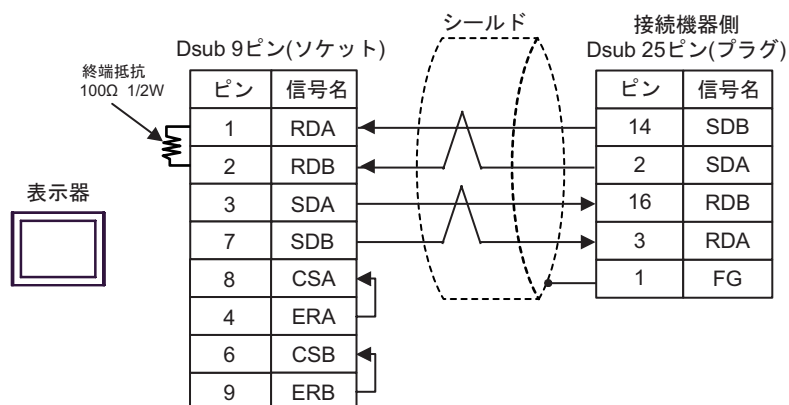
☞ **ディップスイッチの設定：RS-422/485 (4 線式) (28 ページ)**

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP 機種

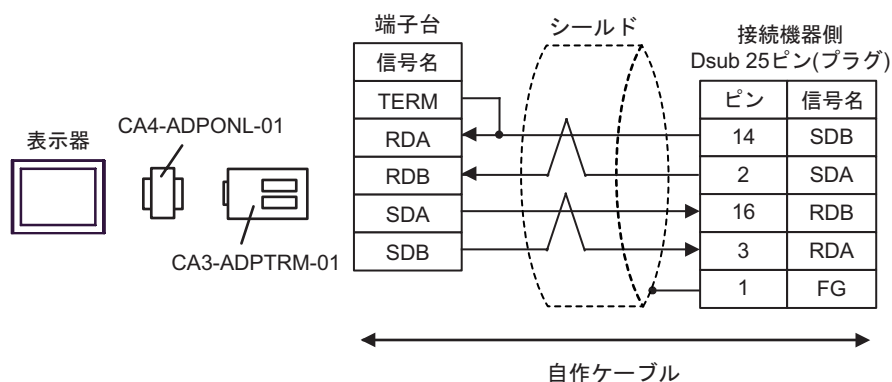
A) (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01)、(株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01)、および自作ケーブルを使用する場合



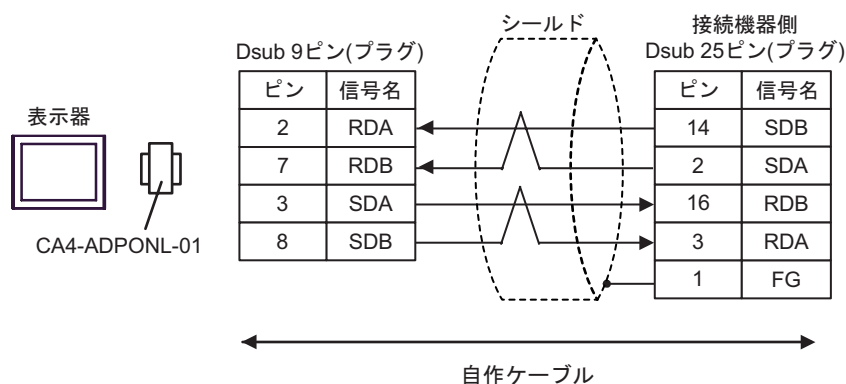
B) 自作ケーブルを使用する場合



C) (株) デジタル製 オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01)、(株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01)、および自作ケーブルを使用する場合



D) 自作ケーブルを使用する場合



6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

6.1 SLC500 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス		ビットアドレス※ 1		ワードアドレス		32bits	備考
Input File		I:00.000/00 - I:63.255/15		I:00.000 - I63.255		[L/H]	
Output File		O:00.000/00 - O:63.255/15		O:00.000 - O:63.255			
Status File		S:0/0 - S:163/15		S:0 - S:163			
Bit File		B3:0/0 - B3:255/15 B9:0/0 - B255:255/15		B3:0 - B3:255 B9:0 - B255:255			
Timer File	Enable	T4:0/ - T4:255/ T9:0/ - T255:255/	EN	T4:0. - T4:255. T9:0. - T255:255.	-		
	Timing		TT		-		
	Done		DN		-		
	Preset		-		PRE		
	Accumulated		-		ACC		
Counter File	Up Enable	C5:0/ - C5:255/ C9:0/ - C255:255/	CU	C5:0. - C5:255. C9:0. - C255:255.	-		
	Down Enable		CD		-		
	Done		DN		-		
	Overflow		OV		-		
	Underflow		UN		-		
	Update Acc		UA		-		
	Preset		-		PRE		
	Accumulated		-		ACC		

デバイス		ビットアドレス※ ¹		ワードアドレス		32bits	備考
Control File	Enable	R6:0/ - R6:255/ R9:0/ - R255:255/	EN	R6:0. - R6:255. R9:0. - R255:255.	-	L / H	
	Enable Unload		EU		-		
	Done		DN		-		
	Empty		EM		-		
	Error		ER		-		
	Unload		UL		-		
	Inhibit Comp.		IN		-		
	Found		FD		-		
	Length		-		LEN		
	Position		-		POS		
Integer File		N7:0/0 - N7:255/15 N9:0/0 - N255:255/15		N7:0 - N7:255 N9:0 - N255:255			
Floating Point File		-----		F8:0 - F8:255 F9:0 - F255:255			32 ビットアクセスのみ
String File		-----		ST9:0 - ST255:255			
ASCII File		A9:0/0 - A255:255/15		A9:0 - A255:255			

※ 1 ビット書き込みを行うと、表示器はいったん接続機器の該当するワードアドレスを読み込みます。読み込んだワードデータのうち対象とするビットのみを変更し、そのワードデータを接続機器に書き込みます。

表示器が接続機器のデータを読み込み接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書き込まれない場合があるのでご注意ください。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4 LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

👉「表記のルール」

6.2 PLC-5 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス		ビットアドレス		ワードアドレス		32bits	備考
Input File		I:0/0 - I:377/17		I:0 - I:377		[L / H]	OCT 8
Output File		O:0/0 - I:377/17		O:0 - I:377			OCT 8
Status File		S:0/0 - S:163/15		S:0 - S:163			
Bit File		B3:0/0 - B3:999/15		B3:0 - B3:999			
Timer File	Enable	T3:0/ - T999:999/	EN	T3:0. - T999:999.	-		
	Timing		TT		-		
	Done		DN		-		
	Preset		-		PRE		
	Accumulated		-		ACC		
Counter File	Up Enable	C3:0/ - C999:999/	CU	C3:0. - C999:999.	-		
	Down Enable		CD		-		
	Done		DN		-		
	Overflow		OV		-		
	Underflow		UN		-		
	Update Acc		UA		-		
	Preset		-		PRE		
	Accumulated		-		ACC		
Control File	Enable	R3:0/ - R999:999/	EN	R3:0. - R999:999.	-		
	Enable Unload		EU		-		
	Done		DN		-		
	Empty		EM		-		
	Error		ER		-		
	Unload		UL		-		
	Inhibit Comp.		IN		-		
	Found		FD		-		
	Length		-		LEN		
	Position		-		POS		
Integer File		N3:0/0 - N999:999/15		N3:0 - N999:999			

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
Floating Point File	-----	F3:0 - F999:999	L/H	32 ビットアクセスのみ
String File	-----	ST3:0 - ST999:999		
ASCII File	A3:0/0 - A999:999/15	A3:0 - A999:999		
BCD File	D3:0/0 - D999:999/15	D3:0 - D999:999		

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4 LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

6.3 MicroLogix シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス		ビットアドレス ※ 1		ワードアドレス		32bits	備考
Input File		I:00.000/00 - I:08.255/15		I:00.000 - I08.255		[L/H]	
Output File		O:00.000/00 - O:08.255/15		O:00.000 - O:08.255			
Status File		S:0/0 - S:163/15		S:0 - S:163			
Bit File		B3:0/0 - B3:255/15 B9:0/0 - B255:255/15		B3:0 - B3:255 B9:0 - B255:255			
Timer File	Enable	T4:0/ - T4:255/ T9:0/ - T255:255/	EN	T4:0. - T4:255. T9:0. - T255:255.	-		
	Timing		TT		-		
	Done		DN		-		
	Preset		-		PRE		
	Accumulated		-		ACC		
Counter File	Up Enable	C5:0/ - C5:255/ C9:0/ - C255:255/	CU	C5:0. - C5:255. C9:0. - C255:255.	-		
	Down Enable		CD		-		
	Done		DN		-		
	Overflow		OV		-		
	Underflow		UN		-		
	Update Acc		UA		-		
	Preset		-		PRE		
	Accumulated		-		ACC		
Control File	Enable	R6:0/ - R6:255/ R9:0/ - R255:255/	EN	R6:0. - R6:255. R9:0. - R255:255.	-		
	Enable Unload		EU		-		
	Done		DN		-		
	Empty		EM		-		
	Error		ER		-		
	Unload		UL		-		
	Inhibit Comp.		IN		-		
	Found		FD		-		
	Length		-		LEN		
	Position		-		POS		
Integer File		N7:0/0 - N7:255/15 N9:0/0 - N255:255/15		N7:0 - N7:255 N9:0 - N255:255			

デバイス	ビットアドレス ※1	ワードアドレス	32bits	備考
Floating Point File	-----	F8:0 - F8:255 F9:0 - F255:255	[L/H]	32 ビットアクセスのみ
String File	-----	ST9:0 - ST255:255		
Long Word File	L9:0/0 - A255:255/31	L9:0 - L255:255		

※1 ビット書き込みを行うと、表示器はいったん接続機器の該当するワードアドレスを読み込みます。読み込んだワードデータのうち対象とするビットのみを変更し、そのワードデータを接続機器に書き込みます。

表示器が接続機器のデータを読み込んで接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書き込まれない場合があるので注意してください。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4 LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

6.4 ControlLogix/CompactLogix シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス※ 1	ワードアドレス	32bits	備考
BOOL	BOOL0:0/0 - BOOL999:999/31	BOOL0:000 - BOOL999:999		※ 2
INT	INT0:0/0 - INT999:999/15	INT0:000 - INT999:999		※ 2
REAL	-----	REAL0:000 - REAL999:999		※ 2
DINT	DINT0:0/0 - DINT999:999/31	DINT0:000 - DINT999:999		※ 2
SINT	SINT0:0/0 - SINT999:999/7	SINT0:000 - SINT999:998		  ※ 2

※ 1 ビット書き込みを行うと、表示器はいったん接続機器の該当するワードアドレスを読み込みます。読み込んだワードデータのうち対象とするビットのみを変更し、そのワードデータを接続機器に書き込みます。
表示器が接続機器のデータを読み込んで接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書き込まれない場合があるので注意してください。

※2 これらのアドレスにアクセスし接続機器のプログラムで使用するためには、最初に接続機器の設定が必要です。

RSLogix5000 ソフトでのデバイスの割付と GP-Pro EX でのアドレスの指定は次の手順で行います。

1) 接続機器の Tag の設定

RSLogix5000 ソフトで Tag Name を作成し、Type を設定します。作成した Tag Name は File Number にマップします。

・ Tag Name	: 任意に設定します。
・ Type	: 次の中からデータタイプを選択し、配列要素数 (Element) を設定します。 GP-Pro EX のデバイス名と合わせます。 BOOT(32bit data type) INT(word data type) DINT(dword data type) SINT(byte data type) REAL(float data type)

設定する配列要素数は GP-Pro EX で使用する範囲を設定してください。GP-Pro EX がアクセスできる最大配列要素数は 999 です。

また、配列要素数を指定しない場合は、1 点のみ使用可能となります。

(例) Tag Name: N8、Type: INT と設定した場合、N8 は 1 ワードのみ使用できます。

<例 1>

Tag Name	Type
N7	INT[200]
DINT1	DINT[100]
DATA2	SINT[50]

1 行目: Tag Name"N7" は INT データタイプで配列要素数 200

2 行目: Tag Name"DINT1" は、DINT データタイプで配列要素数 100

3 行目: Tag Name"DATA2" は、SINT データタイプで配列要素数 50

・ File Number	: RSLogix5000 で作成した Tag Name を任意の File Number に割り付けます。 異なる Tag Name を同じ File Number に設定することはできません。
---------------	---

<例 2>

File Number	Name
2	DATA2
1	DINT1
7	N7

2) GP-Pro EX でのアドレス指定

GP-Pro EX から接続機器のデバイスにアクセスする場合は Type、File Number および配列要素数 (Element) を指定します。



<GP-Pro EX と接続機器のアドレスマップ例>

GP-Pro EX のアドレス 接続機器の File No.1 のメモリ

DINT1:0	↔	DINT 1[0]
DINT1:1	↔	DINT 1[1]
DINT1:2	↔	DINT 1[2]

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4 LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 **「表記のルール」**

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

7.1 SLC500 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
Integer File	N	0000	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Floating Point File	F	0001	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
String File	ST	0002	(FileNumber × 0x10000)+(ワードアドレス × 0x40)
ASCII File	A	0003	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Input File	I	0080	0x10000+(Slot Number x 0x100) + ワードアドレス
Output File	O	0081	(SlotNumber x 0x100) + ワードアドレス
Bit File	B	0082	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Status File	S	0083	0x20000+ ワードアドレス
Timer File	T	EN	00E0 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		TT	00E1 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00E2 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		PRE	0060 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ACC	0061 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Counter File	C	CU	00E3 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		CD	00E4 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00E5 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		OV	00E6 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UN	00E7 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UA	00E8 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		PRE	0062 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ACC	0063 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

デバイス	デバイス名	デバイス コード (HEX)	アドレスコード
Control File	R	EN	00F0 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		EU	00F1 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00F2 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		EM	00F3 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ER	00F4 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UL	00F5 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		IN	00F6 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		FD	00F7 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		LEN	0064 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		POS	0065 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

7.2 PLC-5 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイス コード (HEX)	アドレスコード
Integer File	N	0000	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Floating Point File	F	0001	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
String File	ST	0002	(FileNumber × 0x10000)+(ワードアドレス × 0x40)
ASCII File	A	0003	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
BCD File	D	0004	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Input File	I	0080	0x10000+(Slot Number x 0x100) + ワードアドレス
Output File	O	0081	(SlotNumber x 0x100) + ワードアドレス
Bit File	B	0082	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Status File	S	0083	0x20000+ ワードアドレス
Timer File	T	EN	00E0 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		TT	00E1 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00E2 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		PRE	0060 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ACC	0061 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Counter File	C	CU	00E3 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		CD	00E4 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00E5 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		OV	00E6 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UN	00E7 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UA	00E8 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		PRE	0062 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ACC	0063 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

デバイス	デバイス名	デバイス コード (HEX)	アドレスコード
Control File	R	EN	00F0 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		EU	00F1 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00F2 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		EM	00F3 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ER	00F4 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UL	00F5 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		IN	00F6 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		FD	00F7 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		LEN	0064 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		POS	0065 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

7.3 ControlLogix シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイス コード (HEX)	アドレスコード
INT	INT	0010	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
REAL	REAL	0011	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
DINT	DINT	0012	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
SINT	SINT	0013	(FileNumber × 0x10000)+(アドレス /2)
BOOL	BOOL	0090	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

7.4 MicroLogix シリーズ

デバイス	デバイス名		デバイス コード (HEX)	アドレスコード
Integer File	N		0000	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Floating Point File	F		0001	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
String File	ST		0002	(FileNumber × 0x10000)+(ワードアドレス × 0x40)
Long Word File	L		0005	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Input File	I		0080	0x10000+(Slot Number x 0x100) + ワードアドレス
Output File	O		0081	(SlotNumber x 0x100) + ワードアドレス
Bit File	B		0082	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Status File	S		0083	0x20000+ ワードアドレス
Timer File	T	EN	00E0	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		TT	00E1	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00E2	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		PRE	0060	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ACC	0061	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
Counter File	C	CU	00E3	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		CD	00E4	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00E5	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		OV	00E6	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UN	00E7	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UA	00E8	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		PRE	0062	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ACC	0063	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

デバイス	デバイス名	デバイス コード (HEX)	アドレスコード
Control File	R	EN	00F0 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		EU	00F1 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		DN	00F2 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		EM	00F3 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		ER	00F4 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		UL	00F5 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		IN	00F6 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		FD	00F7 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		LEN	0064 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
		POS	0065 (FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

7.5 CompactLogix シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイス コード (HEX)	アドレスコード
INT	INT	0010	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
REAL	REAL	0011	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
DINT	DINT	0012	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス
SINT	SINT	0013	(FileNumber × 0x10000)+(アドレス /2)
BOOL	BOOL	0090	(FileNumber × 0x10000)+ ワードアドレス

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号：機器名：エラーメッセージ（エラー発生箇所）」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]）
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 MEMO - IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 - デバイスアドレスは「アドレス：デバイスアドレス」のように表示されます。 - 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書込み要求でエラー応答を受信しました（受信エラーコード：2[02]）」

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「エラーが表示されたら（エラーコード一覧）」を参照してください。

